



長崎県対馬病院実習記 「対馬地区離島実習」 2019.11.5

長崎大学医学部医学科

5年 北岡 優

私自身初めての離島で非常に今回の実習を楽しみにしていました。実際に来てみると綺麗な海と山に囲まれた場所で、烏帽子岳に登った際はその海と山が芸術的に絡み合ったリアス式海岸を目の当たりにし、その美しさに大変感動しました。また、奥まった場所にあるものの対馬病院自体は内装も外装も非常に綺麗で、対馬の医療の中核病院を象徴する出で立ちに感心させられました。



病院実習について午前午後を通して様々な先生方に懇切丁寧なご指導をいただきました。

午前中は新患外来を見学させていただきましたが、大学病院とは違い、典型的な風邪症状からニキビのような皮膚疾患まで様々な主訴の患者さんがいらっしゃることに興味深かったです。自身の専門だけでなく、初診でどの科にコンサルすべきなのかという判断が必要とされる場面が多いのは離島・僻地医療ならではというように身をもって感じることができました。

変わって午後からは産婦人科で行われていた腹腔鏡下子宮全摘術を見学させていただきました。まず、対馬で腹腔鏡下の手術が行われていることに素直に感動しましたし、離島に住んだとしても都市部と同じ医療を受けることができるのは非常に良いと感じました。また、術野に入ることはできず残念でしたが、手術中に疑問が浮かぶたびに周りの先生方に質問をするとすぐに答えて解決してくださり非常に勉強になりました。

実習が終わった後、産婦人科の先生方との飲み会に参加させていただいて、対馬にいながら手技のスキルを上げるために鹿児島へ勉強しに行っておられたりしていると、先生方がそれぞれ高い意識で医療に取り組まれているのだと知ることができましたし、また、先生方全員に共通していたのは何より対馬のことが好きだということです。対馬の医療をどうするかという熱い想いをもって毎日取り組まれているということが感じられました。そして、これまで書いたような内容を1日で学び、感じる事ができ、非常に中身の濃い実習となりました。今回、1日という短い期間ではありますが対馬病院で研修させていただきありがとうございました。